

鉄山・北檜山・貝取澗川・椴川鳥獣保護区の鳥類リストについて

富沢 昌章 福島 豪*

要 約

北海道南西部の4箇所の鳥獣保護区で2000年(平成12年)1月から2000年(平成12年)12月まで鳥類のセンサスを実施し、鳥類リストを作成した。4箇所の鳥獣保護区全体で観察された鳥類は留鳥22種、夏鳥28種、旅鳥4種、冬鳥9種の合計63種であった。鉄山・北檜山鳥獣保護区ではそれぞれ合計47種が観察されたのに比べ、貝取澗川・椴川鳥獣保護区では合計34種、43種と観察された種数が少なかったが、これは貝取澗川では夏鳥が14種、旅鳥や冬鳥も3種と少なく、また、椴川では夏鳥が18種と少ない傾向にあったためである。

留鳥ではヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ヤマガラ、ハシブトガラ、コゲラ、ハシブトガラスの7種の観察回数が多く、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ハシブトガラは観察数も多かった。夏鳥ではウグイス、アオジ、カワラヒワ、キジバト、ヤブサメ、キビタキの6種の観察回数が多く、ウグイス、アオジ、カワラヒワ、ヤブサメは観察数も多かった。ホオジロは観察回数は多くないが、これら3種よりも観察数は多かった。旅鳥、冬鳥ではカケスは観察回数が多かったが、ほかの旅鳥、冬鳥も含めて観察数は少なかった。

繁殖期には鉄山・北檜山・貝取澗川の3箇所は広葉樹林であるため、ヒヨドリ、ヤブサメ、キビタキ、シジュウカラが共通して観察され、これらの鳥類は北海道南西部の広葉樹林で繁殖期に優占する種であるとともに、北海道中央部の広葉樹林で繁殖期に優占している種とも共通していた。ただし、センダイムシクイとハシブトガラは観察数が少なく、この2種については相違点であった。また、ヒヨドリとヤマガラは北海道東部や北部では希であるが、中央部では比較的普通に記録され、今回の4箇所の鳥獣保護区でも北海道南西部で調査を実施した1998年の3箇所、1999年の4箇所と同様に普通に記録された。椴川は主に針葉樹林であるため、針葉樹を好むヒガラが優占しており、針葉樹人工林の比率が高い鉄山でもヒガラが優占していた。鉄山・椴川では調査路とした林道沿いに開けた環境があるため、ホオジロが優占しているとともに、アオジ、カワラヒワが観察された。貝取澗川では溪流が流れているため、キセキレイが優占しているとともに、オオルリ、カワガラスも観察され、椴川にも溪流が流れるため同様にキセキレイ、オオルリ、カワガラスが観察された。これらの鳥類は北海道中央部では比較的平坦な地域が多いためあまり多くは観察されず、この点は北海道中央部とは異なる南部の特徴であると考えられる。

Key words: 北海道南西部、広葉樹林、針葉樹林、鳥獣保護区、鳥類、リスト

1 はじめに

北海道南西部では森林における鳥類の生息状況を報告した例は少ない。1998年には北海道南西部に位置する歌才・檜山・大釜谷の3箇所の鳥獣保護区での鳥類の生息状況を¹⁾、1999年には花岡・見市・濁川・湯の沢の4箇所の鳥獣保護区での鳥類の生息状況を報告した²⁾。今回はさらに鉄山・北檜山・貝取澗川・椴川の4箇所の鳥獣保護区で調査を実施したので報告する。

2 調査地

調査地は北海道南西部に位置する鉄山・北檜山・貝取澗川・椴川の4箇所の鳥獣保護区である(図1)。鉄山鳥獣

保護区は函館市内の民有林に、北檜山鳥獣保護区は北檜山町、貝取澗川鳥獣保護区は大成町、椴川鳥獣保護区は江差町内の国有林にそれぞれ設定されている。面積は鉄山鳥獣保護区は891ha、北檜山鳥獣保護区は面積507ha、貝取澗川鳥獣保護区は面積339ha、椴川鳥獣保護区は面積499haである。

北檜山鳥獣保護区は最高標高でも140mと比較的低い丘陵に位置し、急傾斜地も少ない傾向にあった。北檜山以外の3箇所の鳥獣保護区では区域内に川が流れ、川沿いは急傾斜地が多く、多数の沢地形が入り組んで複雑な地形となっている。特に貝取澗川鳥獣保護区は標高10mから600mと高く、急傾斜地も多くなっている。

植生は鉄山・北檜山・貝取澗川の3箇所の鳥獣保護区ではブナを中心に、ミズナラ、シナノキ等の広葉樹林である

* 前道南地区野生生物室臨時研究補助員

が、広葉樹大径木は多くは存在していなかった。また、スギ、トドマツ、カラマツの人工林が存在し、特に鉄山では人工林の比率が高かった。椴川鳥獣保護区は主にヒノキ・スナロ林であり、トドマツなどの人工林も点在する針葉樹を中心とする森林であったが、沢沿いにはブナを中心とした広葉樹林もある。鉄山・椴川鳥獣保護区では調査路とした林道の法面がかなり広いため、調査路沿いに高木がなく草本や低木が茂る開けた環境が多く存在した。林床の植生は鉄山・北檜山鳥獣保護区ではクマイザサが優占していたが、貝取澗川・椴川鳥獣保護区ではササは少なく、草本や低木が茂っていた。



図1. 各鳥獣保護区の位置

3 調査方法

調査は鳥獣保護区内を通る林道（北檜山鳥獣保護区では歩道）に2.0kmの調査路を設け、線センサス法を実施した。調査路を設けた林道（歩道）は大部分は尾根沿いを通っているが、貝取澗川鳥獣保護区では川沿いを通っている。調査路を時速1.5～2.0kmで歩きながら、調査路の両側それぞれ25m、計50mの範囲に出現する鳥類の種類と個体数を記録した。なお、調査範囲外に出現した鳥類についても、種類を記録した。鉄山・北檜山・椴川の3箇所の鳥獣保護区では2000年（平成12年）4月、5月、6月、10月、11月、12月の各月1回、計6回調査を実施した。貝取澗川鳥獣保護区では2000年（平成12年）1月から12月までの各月1回、計12回調査を実施した。

4 調査結果及び考察

4箇所の鳥獣保護区全体で観察された鳥類は留鳥23種、夏鳥28種、旅鳥4種、冬鳥8種の合計63種であった（表1）。このうち、半数を超える37種は3箇所以上で観察されたが、特に留鳥では16種（73%）が3箇所以上で観察された。反対に旅鳥は4種すべてが1～2箇所で観察されただけであり、夏鳥と冬鳥は3箇所以上で観察された種と1～2箇所で観察された種の割合がおおよそ半々であった。

各鳥獣保護区別には、鉄山鳥獣保護区では留鳥17種、夏鳥22種、旅鳥3種、冬鳥5種、合計47種、北檜山鳥獣保護区では留鳥18種、夏鳥21種、旅鳥2種、冬鳥6種、合計47種であった。貝取澗川鳥獣保護区では留鳥17種、夏鳥14種、冬鳥3種、合計34種、椴川鳥獣保護区では留鳥19種、夏鳥18種、旅鳥1種、冬鳥5種、合計43種であった。鉄山・北檜山鳥獣保護区ではそれぞれ合計47種が観察されたのに比べ、貝取澗川・椴川鳥獣保護区では合計34種、43種と観察された種数が少なかった。これは貝取澗川鳥獣保護区では夏鳥が14種、旅鳥や冬鳥も3種と少なく、また、椴川鳥獣保護区では夏鳥が18種と少ない傾向にあったためである。

留鳥は年間を通して観察され、種別の観察回数はヒガラ（23回）、シジュウカラ（23回）、ヒヨドリ（23回）、ヤマガラ（21回）の4種が20回以上と多く、ハシブトガラ（18回）、コゲラ（18回）、ハシブトガラス（16回）の3種が続いた（表1）。これら7種は4箇所すべての鳥獣保護区で観察されるとともに、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ハシブトガラは77羽、69羽、54羽、49羽と観察数も多かった。また、エナガの観察回数は12回と少なかったが、観察数は41羽と前記の4種の次に多かった。これらの種は4箇所の鳥獣保護区とも観察回数や観察数が多い傾向にあるとともに、1999年調査を実施したブナを中心とした広葉樹林に設定されている4箇所の鳥獣保護区においても同様に観察回数や観察数が多い傾向にあった²⁾。ただし、ヒガラは鉄山・椴川鳥獣保護区の2箇所で観察回数と観察数とも多かった（表2、5）。これはヒガラが針葉樹を好む種であり、椴川が主に針葉樹林であり、鉄山が針葉樹人工林の比率が高いためと考えられる。1999年調査を実施した4箇所の鳥獣保護区においても針葉樹人工林が混在するためヒガラの観察回数や観察数が多い傾向にあった²⁾。また、一昨年調査を実施した檜山鳥獣保護区は主に針葉樹林であったため、ヒガラの観察回数や観察数は多かった¹⁾。反対に、主に広葉樹林である北檜山ではヒガラの観察数は少ない傾向にあった（表3）。

夏鳥は4月から11月までに観察されるため留鳥に比べ観察回数は少なかったが、ウグイス（12回）、アオジ（10回）、カワラヒワ（10回）、キジバト（9回）、ヤブサメ（9回）、キビタキ（9回）の6種は観察回数が9回以上と多かった

(表1)。このうちヤブサメ、アオジ、カワラヒワ、ウグイスは29羽、29羽、27羽、26羽と観察数も多かった。ホオジロは観察回数は8回であったが、観察数は40羽とこれら4種よりも多かった。ホオジロは鉄山・楡川鳥獣保護区の2箇所だけで観察されたが、これは調査路沿いに開けた環境が多く存在したためであり、この2箇所では観察数も多かった(表2、5)。

旅鳥、冬鳥ではカケスは観察回数が11回と多かったが、それ以外は観察回数は少なく、ウソ4回が続いていた。また、観察数はマヒワ、カケス、ツグミ、ハギマシコが10～16羽観察された程度で、あまり多くなかった。

繁殖期の6月についてみると、鉄山・北檜山・貝取澗川の3箇所はブナを中心とした広葉樹林に設定されており、共通する点が見られた。ヤブサメは鉄山・北檜山・貝取澗川の3箇所で優占し、シジュウカラは鉄山で優占しているとともに北檜山・貝取澗川においても優占度は比較的高かった(表2～4)。ヒヨドリとキビタキは鉄山・北檜山・貝取澗川の3箇所で観察され、ヒヨドリは北檜山では優占していた。1999年調査を実施したブナを中心とした広葉樹林に設定されている4箇所の鳥獣保護区においてはヤブサメ、センダイムシクイ、キビタキ、ハシブトガラ、シジュウカラなどは共通して観察され、ヤブサメ、センダイムシクイは優占していた²⁾。1998年調査を実施した歌才・檜山鳥獣保護区もブナを主体とした広葉樹林であり、センダイムシクイ、ヤブサメ、シジュウカラ、コルリ、ウグイス、アオジ、エゾムシクイ、キビタキの8種が優占していた¹⁾。また、北海道中央部の広葉樹林では繁殖期にはヤブサメ、センダイムシクイ、キビタキ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラなどが優占していることが報告されている^{3), 4), 5)}。今回調査した鉄山・北檜山・貝取澗川の3箇所でもヤブサメ、シジュウカラ、ヒヨドリ、キビタキなどが共通して観察され、また、ヤブサメは3箇所ともに優占し、シジュウカラも1箇所で優占するとともに残り2箇所でも優占度は高く、これらは昨年調査した4箇所の鳥獣保護区などと共通する点であった。一方、ハシブトガラは1箇所では観察されず、残り2箇所でも観察数は少なく、センダイムシクイは2箇所で観察されず、残り1箇所での観察数も少なく、これら2種については相違点が大きかった。また、ヒヨドリとヤマガラは北海道北部や東部では繁殖期に希であることが報告されているが^{6), 7)}、中央部では比較的普通に記録され^{3), 4)}、1998年の3箇所¹⁾、昨年の4箇所²⁾においても比較的普通に記録されている。今回の4箇所においても普通に記録されていた(表2～5)。

貝取澗川鳥獣保護区ではキセキレイ(14.3%)が優占し、オオルリ、カワガラスも観察された(表4)。キセキレイ、オオルリ、カワガラスは溪流沿いに生息する種であり、調査路が川沿いに設定されているためと考えられた。楡川に

おいても同様にキセキレイ、オオルリ、カワガラスが、鉄山においてはオオルリが観察された(表2、5)。1999年調査を実施した4箇所の鳥獣保護区においても区域内には川が流れているため、溪流沿いに生息するオオルリ、ミソサザイ、キセキレイ、カワガラスが共通して観察され²⁾、また、1998年調査を実施した大釜谷鳥獣保護区でも同様にオオルリ、ミソサザイ、キセキレイ、カワガラスが観察された¹⁾。これらの鳥類は北海道中央部では比較的平坦な地域が多く、優占種とはならず^{3), 4), 5)}、この点は北海道中央部とは異なる南部の特徴であると考えられる。

楡川鳥獣保護区では6月にヒガラ(16.0%)とホオジロ(12.0%)が優占していた(表5)。ヒガラは鉄山と楡川で優占しているが、これは前述したとおり主に針葉樹林であることや針葉樹人工林の比率が高いためと考えられる。ホオジロも鉄山と楡川で優占しているが、これも前述したとおり調査路沿いに開けた環境が多く存在したためと考えられる。また、鉄山ではアオジ、カワラヒワが優占しているが、アオジは林縁性の鳥類であり、林道を調査路にしたため、カワラヒワは開けた環境を好む種であり、林道沿いに開けた環境があるためと考えられる。

5 おわりに

1998年、1999年に引き続き北海道南部の4箇所の鳥獣保護区で調査を実施し、鳥類リストを作成した。3箇所の鳥獣保護区はブナを中心とした広葉樹林であり、観察された鳥類は共通する種が多かった。一方、これらの3箇所の鳥獣保護区には針葉樹人工林も存在し、1箇所は主に針葉樹林であるため、針葉樹を好む種も観察された。また、区域内には川が流れていたり、調査路とした林道沿いに開けた環境があることにより、それらの環境を好む種も観察された。今後、さらに多くの鳥獣保護区で調査を実施し、北海道の他の地域と比較して、南部に生息する鳥類相の共通点と相違点を明らかにしていく必要がある。

6 参考文献

- 1) 富沢昌章、歌才・檜山・大釜谷鳥獣保護区の鳥類リストについて。北海道環境科学研究センター所報 26: 63—71 (1999)
- 2) 富沢昌章・福島豪、花岡・見市・濁川・湯の沢鳥獣保護区の鳥類リストについて。北海道環境科学研究センター所報 27: 31—41 (2000)
- 3) 石城謙吉・松岡茂、北海道大学苫小牧地方演習林の鳥類相 その1 広葉樹天然林と針葉樹人工林における夏期の種構成と生息密度。北海道大学農学部演習林研究報告 29: 43—54 (1972)

- 4) 鈴木悌司・斉藤新一郎・斉藤満, 岩見沢地方の天然生
落葉広葉樹林における繁殖期の鳥類群集. 北海道林業
試験場報告 21: 95—103 (1983)
- 5) 富沢昌章, 羊ヶ丘白旗山鳥獣保護区の鳥類リストにつ
いて. 北海道環境科学研究センター所報 22: 61—68
(1995)
- 6) 富沢昌章・島田明英, 北大天塩・中川演習林の鳥類.
「すぐれた自然地域」自然環境調査報告書 (道北圏域
道央圏域). 北海道環境科学研究センター: 165—168
(1994)
- 7) 富沢昌章・島田明英, 留真の鳥類. 「すぐれた自然地域」
自然環境調査報告書 (大雪山・日勝圏域). 北海道
環境科学研究センター: 92—96 (1995)

Birds List in Tetuzan, Kitahiyama, Kaitorimakawa and Todogawa Wild Life Protected Area

Masaaki Tomisawa and Go Fukushima

Abstract

Survey on birds were carried out in four Wild life Protected Area in Southwestern Hokkaido, from January to December 2000, drawn up the Birds List. A total of 63 species of birds including 22 residents, 28 summer visitors, 4 transients and 9 winter visitors were recorded throughout the present study. Forty-seven species of birds were recorded in Tetuzan Wild Life Protected Area and Kitahiyama Wild Life Protected Area. Forty-three species of birds were recorded in Todogawa Wild Life Protected Area and recorded thirty-four species of birds in Kaitorimakawa Wild Life Protected Area were less than other two Areas and summer visitors were particularly less.

Parus ater, *Parus major*, *Hypsipetes amaurotis*, *Parus varius*, *Parus palustris*, *Dendrocopos kizuki* and *Corvus macrorhynchos* were residents, were frequent observed and moreover *P. ater*, *P. major*, *Hypsipetes amaurotis* and *P. palustris* were observed in large numbers. *Cettia diphone*, *Emberiza spodocephala*, *Carduelis sinica*, *Streptopelia orientalis*, *Urosphena squameiceps* and *Ficedula narcissina* were summer visitors, were frequent observed and moreover *C. diphone*, *E. spodocephala*, *C. sinica*, and *U. squameiceps* were observed in large numbers. *Emberiza cioidea* was not frequent observed, but in large numbers. *Garrulus glandarius* was winter visitors, was common observed, but not in large numbers. Other transients and winter visitors were not

common observed and not in large numbers.

In breeding season *H. amaurotis*, *U. squameiceps*, *Ficedula narcissina*, and *P. major* were common observed at Tetuzan, Kitahiyama and Kaitorimakawa Wild life Protected Area consisted of the broad-leaved trees. Their species are dominant in broad-leaved forest at Southwest Hokkaido and also dominant in broad-leaved forest at Central Hokkaido. But it was different *Phylloscopus coronatus* and *Parus palustris* were observed comparatively little. *H. amaurotis* and *P. varius* were observed common in the four areas and also common at Southwest and Central Hokkaido, but rare at Northern and Eastern Hokkaido. *P. ater* were abundant in Todogawa and Tetuzan consisted of the needle-leaved trees. *E. cioidea* which inhabited open area, was abundant and *E. spodocephala* and *Carduelis sinica* were observed in Tetuzan and Todogawa Wild Life Protected Area. In Kaitorimakawa and Todogawa Wild Life Protected Area *Motacilla cinerea*, *Cyanoptila cyanomelana* and *Cinclus pallasii* which inhabited near the stream, were common observed. These birds were not common at Central Hokkaido because there were not many of stream and slope land at Central Hokkaido, so they were characteristic in Southwestern Hokkaido.

表1. 鉄山、北檜山、貝取淵川、椴川鳥獣保護区で観察された鳥類の観察回数・箇所数

No.	種名		移動 習性	鉄 山	北 檜 山	貝 取 淵 川	椴 川	観察 箇所 数	観 察 回 数	観 察 羽 数
1	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	S		○			1	2	0
2	トビ	<i>Milvus migrans</i>	R	○	○	○	○	4	6	2
3	オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	R			○	○	2	2	1
4	ハイタカ	<i>A. nisus</i>	R				○	1	1	2
5	ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	W		○	○	○	3	3	1
6	エゾライチョウ	<i>Tetrastes bonasia</i>	R	○	○		○	3	5	8
7	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	S	○	○	○	○	4	9	10
8	アオバト	<i>Sphenurus sieboldii</i>	S	○	○	○	○	4	5	5
9	ジュウイチ	<i>Cuculus fugax</i>	S			○	○	2	2	0
10	カッコウ	<i>C. canorus</i>	S	○	○		○	3	3	0
11	ツツドリ	<i>C. saturatus</i>	S	○	○			2	4	0
12	アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	S		○			1	1	0
13	アカショウビン	<i>Halcyon coromanda</i>	S				○	1	1	0
14	クマゲラ	<i>Dryocopus martius</i>	R		○		○	2	4	2
15	アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	R	○	○	○		3	7	4
16	コゲラ	<i>D. kizuki</i>	R	○	○	○	○	4	18	24
17	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	S			○	○	2	8	16
18	ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	S	○				1	2	3
19	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	R	○	○	○	○	4	23	56
20	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	S	○	○		○	3	5	4
21	キレンジャク	<i>Bombycilla garrulus</i>	W		○			1	1	2
22	ヒレンジャク	<i>B. japonica</i>	W		○			1	1	4
23	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	R			○	○	2	13	23
24	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	R	○	○	○	○	4	7	13
25	カヤクグリ	<i>Prunella rubida</i>	W			○		1	1	2
26	コルリ	<i>Erithacus cyane</i>	S	○	○			2	4	6
27	ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureoreus</i>	T	○				1	1	0
28	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	S	○	○	○	○	4	6	0
29	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	S	○	○	○	○	4	8	2
30	アカハラ	<i>T. chrysolaus</i>	S	○	○	○		3	4	3
31	シロハラ	<i>T. pallidus</i>	T	○	○			2	2	4
32	ツグミ	<i>T. naumanni</i>	W	○	○		○	3	3	11
33	ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	S	○	○	○	○	4	9	29
34	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	S	○	○			3	12	26
35	メボソムシクイ	<i>Phylloscopus borealis</i>	T		○			1	1	1
36	エゾムシクイ	<i>P. borealoides</i>	S	○	○			2	3	3
37	センダイムシクイ	<i>P. coronatus</i>	S	○	○	○	○	4	6	7
38	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	R	○	○	○	○	4	11	17
39	キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	S	○	○	○	○	4	9	14
40	オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	S	○	○	○	○	4	8	15
41	コサメビタキ	<i>Muscicapa duarica</i>	S	○	○			1	1	1
42	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	R	○	○	○	○	4	12	41
43	ハシブトガラ	<i>Parus palustris</i>	R	○	○	○	○	4	18	49
44	コガラ	<i>P. montana</i>	R	○	○	○	○	4	8	9
45	ヒガラ	<i>P. ater</i>	R	○	○	○	○	4	23	77
46	ヤマガラ	<i>P. varius</i>	R	○	○	○	○	4	21	37
47	シジュウカラ	<i>P. major</i>	R	○	○	○	○	4	23	69
48	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	R	○	○	○	○	4	14	22
49	キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>	R		○			1	1	0
50	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	S		○			1	2	7
51	ホオジロ	<i>Emberiza cioidea</i>	S	○			○	2	8	40
52	ミヤマホオジロ	<i>E. elegans</i>	T	○			○	2	2	7
53	アオジ	<i>E. spodocephala</i>	S		○	○	○	4	10	29
54	カワラヒワ	<i>Carduelis sinica</i>	S	○	○	○	○	4	11	27
55	マヒワ	<i>C. spinus</i>	W	○			○	2	3	16
56	ハギマシコ	<i>Leucosticte arctoa</i>	W	○				1	1	10
57	ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	S	○				1	1	2
58	ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	W	○	○		○	3	4	5
59	イカル	<i>Eophana personata</i>	S	○	○	○	○	4	7	16
60	シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	R	○				1	1	1
61	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	W	○	○	○	○	4	11	15
62	ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	R	○	○	○	○	4	8	1
63	ハシブトガラス	<i>C. macrorhynchos</i>	R	○	○	○	○	4	17	11
種数		合計		47	47	34	43	63		
		留鳥		17	18	16	19	22		
		夏鳥		22	21	14	18	28		
		旅鳥		3	2	0	1	4		
		冬鳥		5	6	4	5	9		

移動習性 R:留鳥 S:夏鳥 T:旅鳥 W:冬鳥

表2. 鉄山鳥獣保護区で観察された鳥類

No.	種 名	移動 習性	4 月 4.14		5 月 5.19		6 月 6.19		10月 10.14		11月 11.23		12月 12.17		観察 回数	観察数 (羽)
			観察数	優占度 (%)	観察数	優占度 (%)	観察数	優占度 (%)	観察数	優占度 (%)	観察数	優占度 (%)	観察数	優占度 (%)		
1	トビ	R			+		+						1	(5.9%)	3	1
2	エゾライチョウ	R	2	(6.3%)					1	(2.0%)					2	3
3	キジバト	S	+												1	0
4	アオバト	S					+								1	0
5	カッコウ	S					+								1	0
6	ツツドリ	S			+		+								2	0
7	アカゲラ	R									1	(2.9%)			1	1
8	コゲラ	R									2	(5.9%)			1	2
9	ビンズイ	S			2	(3.7%)	1	(3.1%)							2	3
10	ヒヨドリ	S			2	(3.7%)	1	(3.1%)	+		+		1	(5.9%)	5	4
11	モズ	S			1	(1.9%)	1	(3.1%)							2	2
12	ミソサザイ	R											1	(5.9%)	1	1
13	コルリ	S			2	(3.7%)	1	(3.1%)							2	3
14	ジョウビタキ	T	+												1	0
15	トラツグミ	S			+		+								2	0
16	クロツグミ	S			+										1	0
17	アカハラ	S			1	(1.9%)	+								2	1
18	シロハラ	T							1	(2.0%)					1	1
19	ツグミ	W									1	(2.9%)			1	1
20	ヤブサメ	S			2	(3.7%)	3	(9.4%)							2	5
21	ウグイス	S	+		3	(5.6%)	2	(6.3%)	8	(16.3%)					4	13
22	エゾムシクイ	S			+										1	0
23	センダイムシクイ	S			2	(3.7%)	+								2	2
24	キクイタダキ	R	2	(6.3%)	1	(1.9%)	1	(3.1%)			2	(5.9%)	2	(11.8%)	5	8
25	キビダキ	S			2	(3.7%)	1	(3.1%)							2	3
26	オオルリ	S			3	(5.6%)	1	(3.1%)							2	4
27	コサメビタキ	S			1	(1.9%)									1	1
28	エナガ	R	3	(9.4%)					11	(22.4%)	2	(5.9%)			3	16
29	ハシブトガラ	R	5	(15.6%)							1	(2.9%)			2	6
30	コガラ	R	+								+				2	0
31	ヒガラ	R	1	(3.1%)	11	(20.4%)	4	(12.5%)	4	(8.2%)	9	(26.5%)	1	(5.9%)	6	30
32	ヤマガラ	R	+		2	(3.7%)	1	(3.1%)			1	(2.9%)			4	4
33	シジュウカラ	R	3	(9.4%)	1	(1.9%)	3	(9.4%)	2	(4.1%)	1	(2.9%)	2	(11.8%)	6	12
34	ゴジュウガラ	R	+						1	(2.0%)	3	(8.8%)	1	(5.9%)	4	5
35	ホオジロ	S	2	(6.3%)	8	(14.8%)	4	(12.5%)	11	(22.4%)					4	25
36	ミヤマホオジロ	T							1	(2.0%)					1	1
37	アオジ	S			4	(7.4%)	4	(12.5%)	6	(12.2%)					3	14
38	カワラヒワ	S	1	(3.1%)	1	(1.9%)	3	(9.4%)	1	(2.0%)					4	6
39	マヒワ	W									5	(14.7%)	5	(29.4%)	2	10
40	ハギマシコ	W	10	(31.3%)											1	10
41	ベニマシコ	S	2	(6.3%)											1	2
42	ウソ	W									1	(2.9%)	1	(5.9%)	2	2
43	イカル	S			4	(7.4%)	+								2	4
44	シメ	R									1	(2.9%)			1	1
45	カケス	W			1	(1.9%)	1	(3.1%)	+		2	(5.9%)			4	4
46	ハシボソガラス	R	+		+								+		3	0
47	ハシブトガラス	R	1	(3.1%)	+		+		2	(4.1%)	2	(5.9%)	2	(11.8%)	6	7
生息数 (羽/km)			32		54		32		49		34		17			218
種数	合計		18		27		25		14		17		11		47	
	留鳥		11		8		7		7		13		9		17	
	夏鳥		5		18		17		4		0		0		22	
	旅鳥		1		0		0		2		0		0		3	
	冬鳥		1		1		1		1		4		2		5	

移動習性 R:留鳥 S:夏鳥 T:旅鳥 W:冬鳥

表3. 北檜山鳥獣保護区で観察された鳥類

No.	種名	移動 習性	4月 4.13		5月 5.13		6月 6.11		10月 10.8		11月 11.12		12月 12.14		観察 回数	観察数 (羽)
			観察数	優占度 (%)	観察数	優占度 (%)	観察数	優占度 (%)	観察数	優占度 (%)	観察数	優占度 (%)	観察数	優占度 (%)		
1	ミサゴ	S	+		+										2	0
2	トビ	R							1	(23%)					1	1
3	ノスリ	W											+		1	0
4	エゾライチョウ	R									2	(7.4%)			1	2
5	キジバト	S			+		+								2	0
6	アオバト	S					+								1	0
7	カッコウ	S					+								1	0
8	ツツドリ	S			+		+								2	0
9	アマツバメ	S			+										1	0
10	クマガラ	R			+								1	(2.8%)	2	1
11	アカゲラ	R	+		+		1	(2.9%)	1	(2.3%)			1	(2.8%)	5	3
12	コゲラ	R	2	(8.7%)	1	(2.6%)	1	(2.9%)	2	(4.5%)	1	(3.7%)	2	(5.6%)	6	9
13	ヒヨドリ	R	1	(4.3%)	3	(7.7%)	5	(14.3%)	9	(20.5%)	2	(7.4%)	5	(13.9%)	6	25
14	モズ	S					+								1	0
15	キレンジャク	W									2	(7.4%)			1	2
16	ヒレンジャク	W									4	(14.8%)			1	4
17	ミソサザイ	R	1	(4.3%)							1	(3.7%)			2	2
18	コルリ	S			2	(5.1%)	1	(2.9%)							2	3
19	トラツグミ	S					+								1	0
20	クロツグミ	S			+		+								2	0
21	アカハラ	S			1	(2.6%)									1	1
22	シロハラ	T							3	(6.8%)					1	3
23	ツグミ	W											10	(27.8%)	1	10
24	ヤブサメ	S			5	(12.8%)	4	(11.4%)							2	9
25	ウグイス	S	1	(4.3%)	2	(5.1%)	2	(5.7%)	2	(4.5%)					4	7
26	メボソムシクイ	T					1	(2.9%)							1	1
27	エゾムシクイ	S			1	(2.6%)	2	(5.7%)							2	3
28	センダイムシクイ	S			2	(5.1%)									1	2
29	キクイタダキ	R									1	(3.7%)	2	(5.6%)	2	3
30	キビタキ	S			1	(2.6%)	2	(5.7%)							2	3
31	オオルリ	S			+										1	0
32	エナガ	R			1	(2.6%)							2	(5.6%)	2	3
33	ハシブトガラ	R	4	(17.4%)			1	(2.9%)	5	(11.4%)	4	(14.8%)	3	(8.3%)	5	17
34	コガラ	R							2	(4.5%)	1	(3.7%)			2	3
35	ヒガラ	R			2	(5.1%)			1	(2.3%)	2	(7.4%)			3	5
36	ヤマガラ	R	1	(4.3%)	+				2	(4.5%)	+		1	(2.8%)	5	4
37	シジュウカラ	R	1	(4.3%)	1	(2.6%)	2	(5.7%)	3	(6.8%)	5	(18.5%)	5	(13.9%)	6	17
38	ゴジュウカラ	R	3	(13.0%)	1	(2.6%)	3	(8.6%)	2	(4.5%)			3	(8.3%)	5	12
39	キバシリ	R	+												1	0
40	メジロ	S					1	(2.9%)	6	(13.6%)					2	7
41	アオジ	S			5	(12.8%)	2	(5.7%)	1	(2.3%)					3	8
42	カワラヒワ	S	9	(39.1%)	4	(10.3%)	4	(11.4%)	1	(2.3%)					4	18
43	ウソ	W											+		1	0
44	イカル	S			7	(17.9%)	3	(8.6%)							2	10
45	カケス	W							3	(18.8%)	2	(14.3%)			2	5
46	ハシボソガラス	R					+						1	(2.8%)	2	1
47	ハシブトガラス	R	+		+		+				+				4	0
観察数			23		39		35		44		27		36		204	
種数	合計		13		26		25		16		14		14		47	
	留鳥		10		10		8		10		11		11		18	
	夏鳥		3		16		16		4		0		0		21	
	旅鳥		0		0		1		1		0		0		2	
	冬鳥		0		0		0		1		3		3		6	

移動習性 R:留鳥 S:夏鳥 T:旅鳥 W:冬鳥

表5. 楳川鳥獣保護区で観察された鳥類

No.	種名	移動 習性	4月 4.16		5月 5.20		6月 6.13		10月 10.7		11月 11.11		12月 12.9		観察 回数	観察数 (羽)
			観察数	優占度 (%)	観察数	優占度 (%)	観察数	優占度 (%)	観察数	優占度 (%)	観察数	優占度 (%)	観察数	優占度 (%)		
1	トビ	R					+								1	0
2	オオタカ	W							1	(3.2%)					1	1
3	ハイタカ	R									2	(6.9%)			1	2
4	ノスリ	W									1	(3.4%)			1	1
5	エゾライチョウ	R							2	(6.5%)			1	(3.1%)	2	3
6	キジバト	S			3	(13.0%)	2	(8.0%)	1	(3.2%)	1	(3.4%)			4	7
7	アオバト	S					2	(8.0%)							1	2
8	ジュウイチ	S			+										1	0
9	カッコー	S					+								1	0
10	アカショウビン	S					+								1	0
11	クマガラ	R							1	(3.2%)	+				2	1
12	コゲラ	R			1	(4.3%)	+				1	(3.4%)	1	(3.1%)	4	3
13	キセキレイ	S					+								1	0
14	ヒヨドリ	R			1	(4.3%)	2	(8.0%)	2	(6.5%)	4	(13.8%)	2	(6.3%)	5	11
15	モズ	S			+		2	(8.0%)							2	2
16	カワガラス	R			+										1	0
17	ミソサザイ	R									3	(10.3%)	1	(3.1%)	2	4
18	トラツグミ	S			+										1	0
19	クロツグミ	S			2	(8.7%)	+								2	2
20	ツグミ	W											+		1	0
21	ヤブサメ	S			2	(8.7%)	2	(8.0%)							2	4
22	ウグイス	S	1	(9.1%)	1	(4.3%)	1	(4.0%)	3	(9.7%)					4	6
23	センダイムシクイ	S			1	(4.3%)	1	(4.0%)							2	2
24	キクイタダキ	R			+								3	(9.4%)	2	3
25	キビタキ	S			1	(4.3%)	2	(8.0%)							2	3
26	オオルリ	S			2	(8.7%)	+								2	2
27	エナガ	R	2	(18.2%)	1	(4.3%)									2	3
28	ハシブトガラ	R	1	(9.1%)					3	(9.7%)	1	(3.4%)	1	(3.1%)	4	6
29	コガラ	R									2	(6.9%)			1	2
30	ヒガラ	R	1	(9.1%)	3	(13.0%)	4	(16.0%)	3	(9.7%)	11	(37.9%)	6	(18.8%)	6	28
31	ヤマガラ	R			1	(4.3%)	2	(8.0%)	2	(6.5%)	1	(3.4%)	1	(3.1%)	5	7
32	シジュウカラ	R	1	(9.1%)					2	(6.5%)	1	(3.4%)	1	(3.1%)	4	5
33	ゴジュウカラ	R									1	(3.4%)			1	1
34	ホオジロ	S	3	(27.3%)	4	(17.4%)	3	(12.0%)	5	(16.1%)					4	15
35	ミヤマホオジロ	T											6	(18.8%)	1	6
36	アオジ	S					1	(4.0%)	4	(12.9%)					2	5
37	カワラヒワ	S	2	(18.2%)	+										2	2
38	マヒワ	W											6	(18.8%)	1	6
39	ウソ	W											3	(9.4%)	1	3
40	イカル	S			+		1	(4.0%)							2	1
41	カケス	W			+				2	(14.3%)					2	2
42	ハシボソガラス	R											+		1	0
43	ハシブトガラス	R	+		+		+		+						4	0
観察数			11		23		25		31		29		32		151	
種数			合計		8		22		21		14		13		43	
			留鳥		5		8		6		9		10		19	
			夏鳥		3		13		4		1		0		18	
			旅鳥		0		0		0		0		1		1	
			冬鳥		0		1		1		1		3		5	

移動習性 R:留鳥 S:夏鳥 T:旅鳥 W:冬鳥

表4. 貝取淵川鳥獣保護区で観察された鳥類

No.	種名	移動 習性	4月 4.9		5月 5.12		6月 6.12		7月 7.16		8月 8.13		9月 9.17		10月 10.9	
			観察数 (羽)	優占度 (%)	観察数 (羽)	優占度 (%)	観察数 (羽)	優占度 (%)	観察数 (羽)	優占度 (%)	観察数 (羽)	優占度 (%)	観察数 (羽)	優占度 (%)	観察数 (羽)	優占度 (%)
1	トビ	R														
2	オオタカ	W					+									
3	ノスリ	W														
4	キジバト	S							2	(11.1%)			1	(7.7%)		
5	アオバト	S					2	(9.5%)			1	(20.0%)				
6	ジュウイチ	S					+									
7	アケゲラ	R														
8	コゲラ	R	1	(6.3%)			1	(4.8%)	1	(5.6%)					1	(5.0%)
9	キセキレイ	S	2	(12.5%)	4	(18.2%)	3	(14.3%)	2	(11.1%)	1	(20.0%)	1	(7.7%)	3	(37.5%)
10	ヒヨドリ	R			2	(9.1%)	1	(4.8%)	3	(16.7%)						
11	カワガラス	R	1	(6.3%)	1	(4.5%)	2	(9.5%)	1	(5.6%)	2	(40.0%)	5	(38.5%)	2	(10.0%)
12	ミソサザイ	R	3	(18.8%)												
13	カヤクグリ	W														
14	トラツグミ	S			+		+									
15	クロツグミ	S			+		+		+							
16	アカハラ	S							1	(5.6%)						
17	ヤブサメ	S			5	(22.7%)	5	(23.8%)	1	(5.6%)						
18	センダイムシクイ	S									1	(20.0%)				
19	キクイタダキ	R														
20	キビタキ	S			2	(9.1%)	2	(9.5%)	1	(5.6%)						
21	オオルリ	S			5	(22.7%)	2	(9.5%)	2	(11.1%)						
22	エナガ	R	1	(6.3%)									4	(30.8%)		
23	ハシブトガラ	R	3	(18.8%)			1	(4.8%)							3	(15.0%)
24	コガラ	R														
25	ヒガラ	R							1	(5.6%)			2	(15.4%)	1	(5.0%)
26	ヤマガラ	R	1	(6.3%)											4	(50.0%)
27	シジュウカラ	R					2	(9.5%)							5	(25.0%)
28	ゴジュウカラ	R	2	(12.5%)												
29	アオジ	S			1	(4.5%)			1	(5.6%)						
30	カワラヒワ	S							1	(5.6%)						
31	イカル	S							1	(5.6%)						
32	カケス	W			2	(9.1%)									1	(5.0%)
33	ハシボソガラス	R	+						+							
34	ハシブトガラス	R	2	(12.5%)			+									
観察数			16		22		21		18		5		13		20	
種数			合計		10		15		15		4		5		8	
			留鳥		9		7		5		1		3		6	
			夏鳥		1		8		10		3		2		1	
			旅鳥		0		0		0		0		0		0	
			冬鳥		0		1		0		0		0		1	

移動習性 R:留鳥 S:夏鳥 T:旅鳥 W:冬鳥

11月 11.20	12月 12.15	1月 1.9	2月 2.12	3月 3.19	観察 回数	観察数 (羽)
観察数 優占度 (羽) (%)	観察数 優占度 (羽) (%)	観察数 優占度 (羽) (%)	観察数 優占度 (羽) (%)	観察数 優占度 (羽) (%)		
				+	1	0
					1	0
				+	1	0
					2	3
					2	3
					1	0
				+	1	0
	2 (80%)		3 (65%)	1 (7.7%)	7	10
					7	16
+	2 (80%)	2 (7.4%)	6 (13.0%)		7	16
2 (15.4%)	1 (4.0%)	2 (7.4%)	2 (4.3%)	2 (15.4%)	12	23
3 (23.1%)					2	6
2 (15.4%)					1	2
					2	0
					3	0
					1	1
					3	11
					1	1
	1 (4.0%)			2 (15.4%)	2	3
					3	5
					3	9
	2 (80%)	2 (7.4%)	10 (21.7%)		5	19
	3 (12.0%)	5 (18.5%)	4 (8.7%)	1 (7.7%)	7	20
	1 (4.0%)	1 (3.7%)	2 (4.3%)		3	4
1 (7.7%)	2 (8.0%)	3 (11.1%)	3 (6.5%)	1 (7.7%)	8	14
1 (14.3%)	4 (16.0%)	3 (11.1%)	7 (15.2%)	2 (15.4%)	7	22
4 (30.8%)	7 (28.0%)	8 (29.6%)	8 (17.4%)	1 (7.7%)	7	35
		1 (3.7%)	1 (2.2%)	+	4	4
					2	2
					1	1
					1	1
				1 (7.7%)	3	4
					2	0
				2 (15.4%)	3	4
13	25	27	46	13		239
7	10	9	10	13	34	
6	10	9	10	11	16	
0	0	0	0	0	14	
0	0	0	0	0	0	
1	0	0	0	2	4	